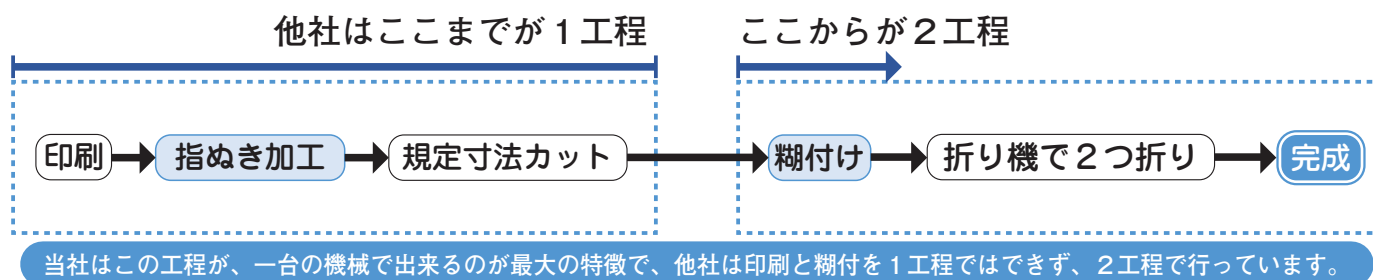


# こうして薬袋が作られています

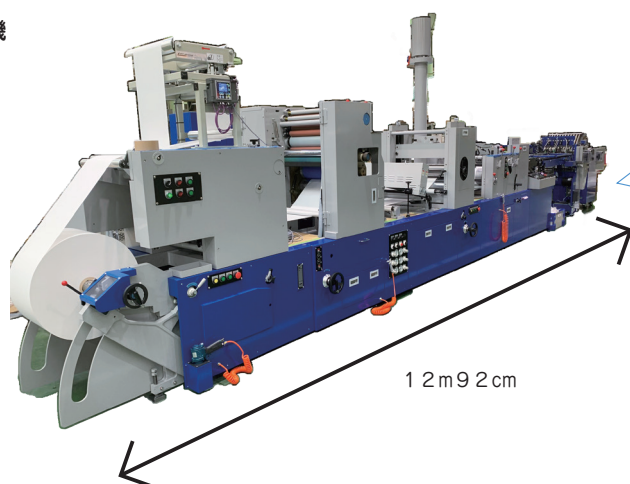
薬袋？何？なんて読むの？て声が聞こえてくるかもしれませんが、読み方は「やくたい」と読みます。

字の通り、「くすりぶくろ」病院や処方箋薬局などで薬を貰うときに、用いられている袋を作っている機械なのです。製造方法は複雑なものではなく、至ってシンプルで、通常のロール紙から袋を作っています。どうやって袋が出来るのかと思われるかもしれませんが、簡単に説明しますと、ロール上から機械に紙を通して、印刷します（ここまではフォーム印刷機と同じ）。印刷工程後→マグネットロールで指抜き加工→規定寸法にカット→カットした左右の部分に糊付け→折り機に通し2つ折りに折り合わせれば、袋が完成する仕組みです。



一時間あたり3万枚（A5・W掛け）前後の袋が出来上がります。  
新台薬袋機は、現行の機械より2色縮小され、1色刷りの仕様となります。  
主にA5サイズの袋がメインに製造予定です。

薬袋機



## プチ情報

先代薬袋機は、印刷機械メーカー・折り機メーカー・そして水三島が開発に加わり誕生したコラボレーションの機械であり、日本で初めて試みた機械であることを知っていましたか？通常稼働までは試行錯誤の上、数年を要しました。